

【学力向上フロンティアスクール用中間報告書様式】(中学校用)

都道府県名	兵庫県
-------	-----

学校の概要(平成15年4月現在)

学校名	尼崎市立日新中学校					
学年	1年	2年	3年	障害児学級	計	教員数
学級数	4	5	5	2	16	29
生徒数	153	171	190	4	518	

研究の概要

1. 研究主題

少人数授業によるきめ細かな指導の研究

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科

<p>1年生・数学 小学校からのつまずきを解消し、中学校数学の速やかな移行を図るため。</p> <p>2年生・英語 新しい構文が増えて、英語嫌いが急増しやすい段階であるため。</p>

(2) 年次ごとの計画

平成15年度	<p>テーマ 基礎基本の定着等を図る方途として少人数学級編成の有効性を探る。 研究の見通し(仮説) 生徒の生活・学習環境を含む実態並びにテスト等の分析により、生徒のつまずき等を把握し、焦点化した反復指導により、より確実な学習の定着を図ることができる。 研究の内容・方法 数学の基礎・基本、英語のつまずきの克服のために効果的な教材の選択と、指導方法の工夫を行う。生徒の学習状況を細かく観察し、教育活動に生かす。あらゆる場を生徒理解の場としてとらえ、全教員に敷衍、報告を行う。</p>
平成16年度	<p>テーマ 少人数学級編成により、授業の確実な定着と深化を探る。 研究の見通し 蓄積されたノウハウと3年数学で少人数授業を行うことで、2年次の追跡指導が効果的にできる。少人数授業でもなお指導が行き届かない生徒の対応がよりよくできる。 研究の内容・方法 少人数授業でも顕著な成果が出にくい者にスクールカウンセラー等の有効活用も図り、生徒の内面理解と全人格的指導に生かし、自分探しの旅に向かって、自立を促すことにより、自主的な学習が可能になり確かな学力をつける。 また、個に応じた課題により、家庭学習の定着を図る。</p>

(3) 研究推進体制

<p>校長 — 教頭 — 新学習システム委員会 研究推進委員会</p> <p>新学習システム委員会の構成 校長・教頭・教務主任・数学科全教員・英語科全教員</p> <p>事業の経過について、校内で情報の共有化 公開授業による対外的な情報提供と情報交換</p>
--

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1 研究成果

* 本校での取り組みは第1学年で数学、第2学年で英語の授業でクラスを2分割し、きめ細かな指導を行っている。第1学年での数学の取り組みは小学校時代に身に付いていない算数の基本的な内容と、今後、発展的な学習に必要な基礎学力の定着を目指している。第2学年での英語の取り組みも、第1学年で定着しなかった学習内容の習得と、学習意欲の向上を目指している。現在等質な2分割クラスで行っているが、少人数クラスの編成方法など課題は残されているが、生徒の希望をできるだけ尊重しながら成果を挙げてきた。

下表はこの取り組みに対して1、2年生との評価を百分率で示したものである。

少人数授業をどのように感じていますか(%)

	1年男子	1年女子	2年男子	2年女子
よくわかって楽しい	50	48	49	44
指名回数が増えていやだ	20	31	31	35
クラスが半分になっていやだ	13	14	10	13
その他	17	7	10	8

また、第2学年生徒を対象にした英語科の調査では、進んで手を挙げ発表できる生徒が増えるなど、授業に取り組む意欲が高まってきている。

下表はこの取り組みに対し、2年生生徒の評価を百分率に示したものである。

少人数授業をどのように感じていますか(%) 抽出クラス対象

調査内容	よく当てはまる	どちらかといえば当てはまる	やや当てはまらない	全く当てはまらない
進んで手を挙げて答えている	16	42	42	0
先生や友達の話をよく聞く	19	42	39	0
自分の力で学習課題を解決しようとしている	19	26	45	10
わからないことなど先生に聞きやすい	26	42	29	3
少人数学習でその教科が好きになってきている	33	53	14	0

2 今後の課題

生徒が進んで発表するなど、積極的な授業参加に欠ける面がある。緊張感ある授業に加えて、生徒が間違いを気にせず発言できる雰囲気作りにさらに努めたい。

少人数ならではの教材・個に応じた多様な教材の工夫に努めたい。

家庭学習の時間を有効に活用できるような働きかけを継続したい。

依然として成果が見えない生徒に、引き続き基礎学力の定着のための指導に努め、苦手意識の払拭と学習意欲の向上と自信を育てたい。

学力把握のための学校としての取組

- ・多面的な生徒理解のために、「ストレスアンケート」を年間2回（5月・11月）に行う。
生徒の心情的内面的理解と、学習全般に関する関心をみる。
- ・「学習に関する意識調査」
9月、少人数授業の関心と家庭学習の状況について調査した。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- ・説明会は入学時の新入生説明会（2月）、職員会議（5月以降適宜）、育友会総会（5月）、学校評議員会において、本校のシステムを説明し、理解を得るとともに内容・状況等の報告を適宜行った。また、学校通信において、生徒の様子等について、全校生徒に配布し、生徒に隣人宅にも配布させ、また、地区の社協会長（25人）にも同様に配布広報した。
- ・校内の研究会については、月1回を原則に、情報交換を行った。
- ・成果については、公開授業によって発表することとし、11月20日本市教育委員会学校教育課・教育総合センター研修担当課の指導主事の指導と助言を得た。
- ・内容については、他教科の分も含めて校内実践報告集としてまとめた。
- ・授業の状況については、数・英の各教科の中で共有しており、それぞれ一定の成果が認められる。
- ・フロンティアティーチャーは本事業の先導的指導を行う者として、校内研究体制全般と連携しながら、本事業さらに広範な視点で機能していくことを目指す。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- 【新規校・継続校】 15年度からの新規校 14年度からの継続校
- 【学校規模】 3学級以下 4～6学級
 7～9学級 10～12学級
 13～15学級 16学級以上
- 【指導体制】 少人数指導 T・Tによる指導
 その他
- 【研究教科】 国語 社会 数学 理科
 外国語 音楽 美術 技術・家庭
 保健体育 その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 有 無